

## 環境大臣賞（優秀賞）

「生徒会の手で琵琶湖をよみがえらせたい」

「うわっ、汚い！」

生徒会の活動で「下阪本クリーン大作戦」という清掃活動を行っていたときに、つい口走ってしまった一言である。私が清掃を担当していたのは下阪本にある琵琶湖沿いの公園。一見自然豊かできれいな公園に見えるが、実際に掃除をしてみると、そのごみの量に驚いた。道のはしに落ちているお菓子の袋やたばこの吸い殻、琵琶湖の中に浮いている空き缶の数々。まさか、ここまで汚れていたとは思わず、ショックを受けた。しかも、落ちているごみはすべて人間の手で捨てられたものであり、人が自然を壊している、という事実を思い知らされた。

また、私は小学校五年生のとき、うみのこという船で一泊二日のびわこ環境学習をした。その学習のなかで、琵琶湖の北湖と南湖の水質の違いを調査する、というプログラムがあった。実際に、水を透明の容器に入れて見比べてみると、違いは一目瞭然。南湖の方が目で見ても分かるくらい濁っていて、水質が悪かった。うみのこの職員さんに、南湖の水が汚れている原因を聞いてみた。南湖周辺の方は人口密度が高く、ごみを捨てられることが多く水質が汚濁されやすい、ということなのだそうだ。私に住んでいる地域は南湖のあたりである。自分がつい捨ててしまったごみがあるまま琵琶湖の水質汚濁につながるのかと思うと、ぞっとした。だからこそ、もっと自分の行動に責任をもてるような人になろうと思った。

私がこの二つの体験を通して感じたことは、水は、人間の手によって悪いものにも良いものにもなってしまう、ということである。琵琶湖の水が汚濁されれば、その臭いで付近に住む人たちが生活しづらくなってしまうったり、魚や鳥などの生き物が生きていけなくなってしまうたりと、さまざまな環境問題が起こる危険性がある。また、琵琶湖は周りの府県の水源にもなっているため、そうした地域の人々にも影響が及ぶ。

滋賀県 大津市立日吉中学校 三年 陣山 涼葉

だがその一方で、水は人類を発展させる鍵にもなる。昔から、大河の流域にはさまざまな文明が繁栄してきたように、水のあるところには多くの文化が栄えるのである。つまり、美しい水を持つということで、より豊かな生活へと発展させることができるのではないか。

そんな可能性豊かな「水」というすばらしい資源を、どう活用していくかは私たち人間次第なのである。だから私は、こまめに水道の蛇口を閉めて節水する、汚れたものをそのまま洗わず拭き取ってから流す、などということをや心がけて、有限である水を大切に使うように思う。昔の人たちが残してくれたこの美しい水を、琵琶湖を後世へと受け継いでいくために私たちができることは、一人ひとりが水に対する意識をもち、行動に責任をもつことだと思う。

私は生徒会として坂本ふるさと大掃除や、雄琴ヨシ刈りなどという地域行事に参加してきた。ヨシ刈りをする事によって、水をきれいにしてくれるヨシが翌年も立派に生えてくるそう。そうした地域活動に参加することが、自分達が住む町を美しくする一歩なのだと思うと、もっと頑張ろうと思えてくる。

日吉中学校を取り巻く日吉学区が美しくなれば、それは琵琶湖の美化にも繋がり、琵琶湖周辺の命のサイクルの改善にも繋がる。私たちが行う美化運動は小さな一歩かもしれないが、それが琵琶湖の環境を良くするんだと信じて、これからも頑張っていきたい。